

金正日の経済改革

中川 雅彦 編

2005 年 2 月

独立行政法人 日本貿易振興機構

アジア経済研究所

本報告書に掲載されている論文等で表明されている見解は執筆者個人の見解であり、日本貿易振興機構アジア経済研究所の見解を代表するものではない。

まえがき

朝鮮民主主義人民共和国において経済改革が実施されていること、そしてこれがこの国の社会主義経済に大きな変化をもたらしつつあることはすでに多くの報道機関によって伝えられている。しかし、伝達される情報の多くは断片的な現象を伝えるものに過ぎず、この経済改革が如何にして開始されたか、如何なる方針の下に行われているのかといったことは明らかにされていない。

本報告書は平成16（2004）年度機動研究「朝鮮民主主義人民共和国の経済改革の現状と展望」研究会（主査：中川雅彦）における成果である。目下、日朝間では拉致問題および核問題が最大の懸案となっており、未だ解決の目途が立っていないことは周知のとおりである。ただし、これらの困難な問題が解決されれば、その次の段階として、国交正常化交渉が1991年に始まった当初から議題の一つに挙げられていた経済問題が討議されることになる。これまでこの問題に関しては、2002年に平壤で行われた小泉純一郎総理と金正日国防委員会委員長との会談で、双方がそれぞれの財産請求権を放棄したうえで経済協力をするという方式で解決するという原則が定められたのみである。この研究会は、将来的に日朝間で経済問題が討議されるようになる場合に備えて、朝鮮側の基本的な経済状況を把握しておくことが必要であるとの認識から始まった。経済全般に大きな変化をもたらしつつある経済改革が進行中である以上、この経済改革のプロセスを解明することは経済状況を把握するための必須の作業であり、本報告書の目的はまさに経済改革のプロセスの解明とその展望にある。

本報告書は、同国における最近の経済改革についてその起源や、国家予算、工業、農業等における進捗状況を分析したものと、今後の進展状況に大きな影響を与える力を持つ他の国々との関係を調査したものによって構成されている。とくに経済状況に関する分析においては、政府の公式発表および国際機関への報告、現地研究者による学術論文、国際機関による現地調査といった現地を発信源とする一次資料の分析に力が注がれている。執筆には、最近（2004年8月）に訪朝して、同地の研究者との接触を持った2名の在日朝鮮人研究者も参加している。また、平壤にあるロシア大使館での勤務経験を持つアカデミーの研究者と南北関係に明るい韓国の研究者も原稿を寄せている。

2005年1月

中川雅彦

CONTENTS

エグゼクティブ・サマリー

第1章 経済現状と経済改革中川雅彦	1
はじめに.....	1
第1節 経済現状.....	2
第2節 経済政策の変遷.....	6
第3節 経済改革の開始.....	9
結 び.....	11
第2章 食糧の需給状況と人々の健康状態文 浩一	15
はじめに.....	15
第1節 食糧事情.....	16
第2節 人々の健康状態.....	23
結 び.....	28
第3章 工業部門と国家予算に見る経済再建の動き朴 在勲	29
はじめに.....	29
第1節 「7.1措置」による朝鮮経済の変化.....	29
第2節 工業における変化.....	34
第3節 国家予算における変化.....	42
結びにかえて.....	48
第4章 胡錦濤時代の中朝関係佐々木智弘	53
はじめに.....	53
第1節 中国の対北朝鮮外交.....	54
第2節 新たな経済交流の可能性.....	59
第3節 中国の対北朝鮮政策への提言.....	62
結 び.....	64
第5章 プーチン時代の口朝関係A. V. ヴォロンツォーフ	69
はじめに.....	69
第1節 北朝鮮の政策転換.....	70
第2節 貿易および経済関係.....	72
第3節 文化交流.....	78

第4節 政治的關係.....	79
結びにかえて.....	84

第6章 南北經濟協力 - 研究者たちの評価 -	柳 吉在 89
はじめに.....	89
第1節 南北經濟協力は進展しているのか	91
第2節 南北經濟協力は北朝鮮經濟メカニズムに変化をもたらしたのか	93
第3節 南北經濟協力は「韓国の一方向的な交易」なのか	95
第4節 南北經濟協力のための韓国の役割は何か.....	99
結 び	102